

INTERVIEW.2

行動計画の策定と 環境にやさしい鉄道を 伝える広報活動

民営鉄道72社が加盟する日本民営鉄道協会では、業界横断・統一的な観点から業務を推進している。各社が環境活動に取り組む中、協会での取り組みについて紹介する。

構成●みんなつ編集室／撮影●織本知之



日本民営鉄道協会理事長

羽尾 一郎

Ichiro HAO

——地球温暖化問題について、日本民営鉄道協会(以下、民鉄協)でのこれまでの取り組みについてお聞かせください。

羽尾 鉄道は、自動車などと比べて一人を運ぶに当たり排出されるCO₂の量が少ない、環境にやさしい乗り物です。そのため、より多くの方に利用していただきたいと考えていますが、比較的少ないとはいえ、鉄道輸送に当たってもCO₂を排出しており、これを減らしていくことが重要です。

このため、民鉄協の一つ目の取り組みとしては、会員各社に対し、省エネ型車両の導入など鉄道施設の脱炭素化に資する補助金・税制についての周知・利用促進を行ってきました。また、制度の拡充など会員各社からの意見をとりまとめ、政府に対し要望することも行ってきました。地球温暖化問題は、日本の産業界をあげて取り組んでいくべきものであります。民鉄協が会員として加入している日本経済団体連合会では、会員に対し、業種や企業単位でCO₂を削減するため、「低炭素社会実行計画」の策定を要請していました。

そこで、民鉄協の二つ目の取り組みとしては、2013年から「低炭素社会実行計画」を策定し、日本経済団体連合会の取り組みに参画しています。2015年に一度計画を改定し、その際に設けた目標では、運転用電力量使用原単位(電車を運転する際に使われる電力量を車両走行キロで除したものを)を2030年度において2010

年度比5・7%以上の削減を目指すこととしました。

——それらの取り組みによるこれまでの成果はいかがでしたか？

羽尾 策定から6年経過し、運転用電力量使用原単位の2021年度の実績は12・6%減となり、目標の5・7%以上を遙かに上回る結果となりました。これは、会員各社が、補助金等を活用しつつ、省エネ型車両への置き換え等を積極的に行ってきたことの成果です。車両走行キロ当たりの電力量使用の原単位指数は確実に減少し、電力使用量の削減を通じて、地球温暖化対策に着実に貢献して参りました。この結果、2021年度末の大手16社の運転用電力に係るCO₂排出量は約175万トンと協会では推計しています。

——2022年に取りまとめた、「カーボンニュートラル実現に向けた行動計画」の内容について詳しくお聞かせください。

羽尾 日本経済団体連合会は、政府が2050年までにCO₂排出量ゼロを目指すカーボンニュートラルの実現を掲げたことを受け、2021年6月に、その具体的な取り組みとして、「経団連低炭素社会実行計画」を「経団連カーボンニュートラル行動計画」に改め、会員に対して改めて参加の呼びかけがありました。

民鉄協においても、2021年の時



JRグループとともに作成した「Switch! SUSTAINABLE TRAIN」のポスター。

点で2030年の目標を達成していたことを踏まえ、これを前向きに見直し、新たに2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン（基本方針）を加えた行動計画を策定いたしました。

具体的には、電力使用量の大部分を占める列車運転に要する電力を対象に、①電力をより効率的に利用するVVVFインバータ制御・回生ブレーキの装備や車体の軽量化等による省エネルギー車両の導入

②非化石証書等の活用による再生可能エネルギーや回生電力を使用した列車運行

③加速時間の短縮による省エネ運転、需要の分散化等による列車運行ダイヤ・車両運用の適正化

などを通じて、「大手事業者全体の運転用電力に係るCO₂排出量を2013年度比で46%削減」を目指すことにしています。

また、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラルの実現に向けて」を受け、次の二点を2050年に向けたビジョン（基本方針）としました。

①～③の諸施策をさらに推進します。また、鉄道事業の主たるエネルギーである電気事業者が供給する電力の脱炭素化に期待します。さらに、再生可能エネルギー、省エネルギーに関する新たな技術開発や社会実装の検討を政府の支援により官民一体となって進め

られることにかかわってまいります。二点目は、「環境負荷が小さい鉄道の利用促進」を図ることです。

——環境にやさしい鉄道の利用促進に向けて、協会が実施している広報活動について、お聞かせください。

羽尾 民鉄協では、これまでも低炭素型のサービス・ライフスタイル等を積極的に国民に呼びかける、政府の国民運動「COOL CHOICE（賢い選択）」と連携し、会員各社の駅、車両等への関連ポスターの掲示等に協力してきました。さらに、今年度の事業計画において、「環境にやさしい鉄道への理解を深め、利用促進を図る啓発活動を実施していくこと」とし、協会自らも積極的に広報活動を展開していくこととしました。

その具体的な動きの一つ目として、JRグループとともに、共通のロゴマークとスローガン「Switch! SUSTAINABLE TRAIN」を掲げ、次のデザインイメージをもとにしたロゴマークを作成しました。

・カーボン「ゼロ」を目指すことや列車の車窓をモチーフに意匠化
・クリーンな大気や自然を想起させるターコイズグリーンを基本色とし、各社コーポレートカラーでも展開できる
・サステナブルな未来に向けて、鉄道の利用を前向きに社会やお客様に呼び掛けるイメージをもたせる
このロゴマークを使ったポスターも

作成し、2024年1月からは大手16社の駅などに掲出し、PRしています。



「Switch! SUSTAINABLE TRAIN」のロゴ

二点目の動きとしては、環境にやさしい鉄道の理解促進を促すサイト（※）を設置しました。これまでの民鉄協の広報活動では、駅・車両等へのポスター等の掲出が中心でしたが、これでは鉄道を普段利用されていない方への訴求ができません。そこで、今回はウェブ媒体を活用することとしました。

※「鉄道を目指すカーボンニュートラル」
<https://mintesu-carbon-neutral.jp/>



——どのようなサイトですか？ 工夫された点などお聞かせください。

羽尾 このサイトでは、鉄道が環境にやさしい乗り物であることをわかりやすく伝えることを目的に、鉄道ファンとしても知られる俳優／タレント 村井美樹さんにストーリーテラーになっていただき、その理由や仕組み、鉄道各社の取り組みなどを楽しく読み進められる漫画で表現しています。数値や文章を見聞きするだけでは、何となく

わかっただけということになりがちなのところを、当サイトを通じ腹落ちしてもらおうことよって、移動手段を自動車や航空機から鉄道に変更してみよう、という行動変容に実際に繋げていくことを目標にしています。

もちろん、鉄道が利用できない地域の方にはなかなか難しいことですが、例えば、通勤に鉄道を利用されている方が、休日にレジャーや買い物に出掛ける際、普段ならば自家用車を利用するところを鉄道に代えてみようと思ってもらえるきっかけになれば、良いのではないかと考えています。

——今後、民鉄協では、カーボンニュートラルをはじめ環境に関して、どのようなことに取り組んでいかれますか？

羽尾 今後とも会員各社の意見・要望を汲み取りながら、引き続き、政府をはじめ関係者と調整し、省エネ車両の導入等鉄道施設の脱炭素化に資する補助金・税制の確保・充実に努めて参ります。また、環境にやさしい鉄道に関する広報活動をさらに深めていくことも大切です。JRグループと共通の土台ができたりましたが、これを国や他の鉄道会社にも広げていきたいと考えています。

さらに、民鉄協公式キャラクターのミーカちゃんの活用です。幅広い層に鉄道への親しみを感じてもらい、利用に繋がるように、との思いでいます。これらのことを通じて、民営鉄道業界における「カーボンニュートラル実現に向けた行動計画」の実現に向けて取り組みで参ります。



民鉄協公式キャラクターのミーカちゃん